

憧れはいつも隣にいた

リトルファントム・・・15年前に壊滅した女子高生売春グループ。

フェイクファントム・・・8年前、リトルファントムに憧れた女子高生たちが結成した「パパ狩り」のグループ。舞香の高1の夏から高3の夏までの2年で解散したはずだが、最近また活動を再開した。

白い世界・・・5年前の夏、世界から色が失われた。

月虹病・・・世界が白くなってから人類に現れるようになった病気。段々と筋肉が衰えていき、1年ほどで死に至る。死ぬ間際、失われた色覚が戻ることからこの名がついた。

◎登場人物

昴 舞香（すばる まいか）・・・かつて女子高生画家として独特な色使いの絵で名を馳せた。スランプに陥っており、フェイクファントムでの体験が創作に影響を及ぼしていたと考えている。23歳。

赤星 愛論（あかぼし めろん）・・・フェイクファントムを結成。5年前の舞香のスランプから行方不明に。23歳。

琥珀 エレン（こはく えれん）・・・月虹病により死期が迫っている。イギリス人ハーフ。フェイクファントムの実質の運営を担う。大手広告代理店に入社。23歳。

下寺 太結（しもでら たゆ）・・・23歳。舞香にフェイクファントムの再結成を依頼する。エレンの金魚の糞と呼ばれる。

野毛 蕾花（のげ らいか）・・・23歳。舞香をライバル視している。

切原 葵音（きりはら あおね）・・・23歳。愛論への憧れ故、行方不明のショックで廃人のようになってしまった。

明日見 涼照（あすみ すてら）・・・23歳。愛論がフェイクファントムを結成するきっかけ。

有田 美鈴（ありた みすず）・・・31歳。舞香が高校時代の新任教師。（生物担当）川の流

れ部顧問。蕾花からフェイクファントムの搜索を依頼される。

・名前のみ

堤 織仁（つつみ おりひと）・・・50歳（5年前）。古典教師。フェイクファントムの解散少し前に殺された。

舞台は白一色。

白い布や紐が天井から垂れ下がり、長さの様々な白い棒が散らばっている。舞台中央に白い布の塊。

全員衣装は白。

回想シーンのみ、女子高生(フェイクファントム)は色付きのリボンをつける。人間として存在しない者は白いマスクを着用する。

○オープニング

【照明：ブルー＋ムービング】

白い棒を持って出てくるフェイクファントムたち。「Silent night」を口ずさむ。

Silent night, holy night

All is calm, all is bright

Round yon virgin mother and child.

Holy infant, so tender and mild,

Sleep in heavenly peace,

Sleep in heavenly peace.

白い布の塊を次々に叩くフェイクファントムたち。

仕事帰りの美鈴がその様子を見かける。

美鈴 何してるのあなたたち！

【照明：ブルー】

手を止めるフェイクファントムたち。

愛論 ねえ先生。今、星が、昇ったよ。

美鈴 え？

愛論 星が昇ったら、地上には何が残ると思う？

美鈴 何？

フェイクファントムたちがいっせいに棒を床に落とす。

全員 その日、世界は真っ白になった。

【照明…レッド】

【音響…BGM シューベルト軍隊行進曲 IN】

○現在 A 1

舞香、エレン、太結以外は棒を持ち、エレンを囲む。
布に寝転ぶエレン。病院。

【音響…BGM シューベルト軍隊行進曲 OUT】

【照明…地明かり】

舞香 月虹(げっこう)病？ 月の光？

エレン 違う。ムーンボウ。夜に見える虹のこと。

舞香 虹……。

エレン え？ 虹わからない？

舞香 いや、嫌いだっただから。

エレン え？

舞香 虹。七色の美しさ、みたいなのがわからなくて、小さい頃、お母さんと

お父さんに。

エレン 見ると幸せになれるという月虹。

舞香 そうなの？

エレン でもこの病気は虹を見ると死んじゃうんだってさ。

舞香 え？

エレン 1年で身体の筋肉が衰えていって、手も足も動かなくなって、顔を上げることでもできなくなって。1番最後。目の筋肉も衰えて、まぶたが閉じていくんだけどね。その最後、まぶたが降りる瞬間に数秒だけ、世界に色が戻ってくるんだって。だから月虹病。

舞香 なんて。

エレン 世界が白くなったからじゃない？

舞香 え？

エレン 5年前、空からたくさんミサイルが降ってきて、そのミサイルは人間から色を奪っていった。

舞香 私にはミサイルじゃなくて、星に見えた。

エレン 私にはミサイルに見えたな！

舞香 私は死ぬと思った。

エレン 綺麗だった。無数の赤い線が、交差して、交差して、見とれてたら、なーんにも爆発は起きなかったけど。それまでの青空が真っ白になって。

舞香 そうだったね。

エレン 月虹病。原因はわかってないけど、4年前に初めて死亡者が出て。多分世界が白くなったことが影響してるんじゃないかって。

舞香 そうなんだ。

エレン 奇病だってさ。せっかく行きたい会社に行けたのに、ついてないよねー。

舞香 仕事は？

エレン せっかくずっとやりたかった広告デザインの仕事出来るんだよ？ 会社に無理言って続けさせてもらってる。1年あつたら世界に何か「私」を残せるかもしれないね。

舞香 エレンは昔っから、強いね。

エレン 舞香は？ 描いてる？ まだ。

舞香 え？ あー、うん。まあ、ちよいちよい、かな。

太結 描いてないよ。

エレン え？

太結 舞香は描いてない。

舞香 太結。

太結 高校卒業してから、ほとんど描いてないでしょ？ 美大も途中でやめち

やったって聞いたよ？ 今、何してるの？

舞香 今？ 私？

エレン そっか。描くのやめちゃったんだね。

舞香 いや。

太結 舞香が今何しててもいい。でも、舞香には描いてもらわないと困るの。

舞香 なんて、私が描かないと、困るの？

太結 エレンが言ったんだよ。私が世界に残せるものの構想ができたって！
もし1年で終わるとしても、もし体が動かなくなっただとしても、舞香がいれば、舞香と一緒になら、できそうな気がするって。だから。

エレン 私にはミサイルに見えた。舞香には星に見えた。ねえ、太結には何に見えた？

太結 え？ 私？ 5年前のあれだよ？ 空から降ってきたやつ。

エレン そう。

太結 なんだろう。私には、見たまま、たくさんの「線」が落ちてきて、私たちの上で弾けて粉になって。

エレン だってよ舞香？

舞香 え？

エレン 目を閉じて、あの時の光景を思い浮かべた時に、色があつた最後の瞬間。それが星に見えた舞香は、壊れてたのかな？

舞香 ちよつと、言いたいことがわからないけど。

エレン 舞香が描いてないのは、あの日が理由なの？

舞香 太結。今日、私を呼んだのは、そのため？ 私に描かせるため？

太結 そうだよ。

舞香 ……ごめんね。私、力になれそうにないや。(立ち去ろうとする。)

太結 ……フェイクファントムを再結成しても？

舞香、立ち止まる。

エレン 何言ってるの？ そんなの無理だよ。だって愛論は……。それにフェ

イクファントムが再結成したって舞香がまた絵を

舞香 できるの？ 再結成。

太結 舞香がその気なら？

舞香 愛論は？

太結 愛論も舞香がその気なら、絶対動く。

舞香 絶対？

太結 エレンと愛論を1番側で見ってきたのは私だから。糞だったから。

舞香 糞？

太結 金魚の糞。知ってる？ 金魚はお尻の筋肉が弱いから自分で糞を切るこ

とができないんだよ？

舞香 だから？

太結 だから、わかる。愛論は動く。

舞香 再結成の意味、わかってる？ ただ同窓会しようってわけじゃないんだよ？

太結 もちろん。わかってる。

舞香 また、人を傷つけるって……いや、殺すってことだよ？

太結 世の中には死んだ方がいい人間って言うのは、絶対いる。あの時もいた。あの男たちは死んで当然だった。違う？

舞香 違う……とは思ってない。

太結 女の子を、私たちを、慰み物としか思っていないような、そんな男たちは、死んで当然でしょ？

舞香 うん。

太結 私たちのやったことは間違っていない。

舞香 うん。

太結 制裁だよ。神の代行。天罰。なんでもいい。私たちは間違っていなかった。あんなことがなければ、今だって続けてたかもしれない。

舞香 うん。

舞香、エレンの元へ。

舞香 蝉の寿命って、本当は7日じゃないんだって。

エレン 本当は、1ヶ月くらい生きるんでしょ？

舞香 そう。でもさ、7日で死んじゃった方が美しいって思わない？

エレン ……思ってたよ。ここに来るまではね。

舞香 世界が白くなった日から、私の才能は枯れた。そこからの人生は、8日目以降の蝉。美しくない。惰性で生きてる。そんな風に思ってた。私が描けてたのは、フェイクファントムで命を燃やしたから。だから、それがなくなっただけでなくなった。そう思ってた。でも、生きてたら、こんなこともあるんだね。

太結 こんなこと？

舞香 何か動きそうなの、そんな胸騒ぎがする。ちよつとだけ。ちよつとだけだ

けど。また愛論に会えるんじゃないかって。

太結 私は、絶対会えると思う。

舞香 何で？

太結 だって、ここで3人が揃わなかったら、何のために神様は3人を生んだの？ 揃わないなら、私たち、あのとき終わっててよかったじゃん！

舞香 そういう、考え方もあるんだね。

エレン ねえ舞香。私は、7日じゃ死にたくない。

舞香 私も、7日じゃ死にたくない。

太結 決まりだね。フェイクファントム、再結成。

舞香 どうするの？

太結 涼照に会おう。フェイクファントムは涼照のために愛論がつくった。だから時間を巻き戻していくの。

舞香 時間は巻き戻らないよ。砂時計はひっくり返せば、同じ時間が計れるけど、ひっくり返す前に時間が戻るわけじゃないし、もしひっくり返す前の砂の量が減ってたら、同じ時間も計れない。

太結 麗羅のこと？

舞香 麗羅は、高校卒業の前に死んだ。だから、フェイクファントムが再結成しても、麗羅は戻ってこない。

エレン 麗羅はフェイクファントムじゃなかった。

舞香 通用するの？ そんな言い訳みたいなこと。

エレン する。麗羅は本当に何もしてないから。

舞香 麗羅は殺されたんだよ？

エレン そうだよ？ でも、それは私たちの中ではなかったことになってるから。

太結 砂時計には、初めからその砂は入ってなかった。それがみんなの共通認識はずだよ？

舞香 ……わかった。私はたとえ砂時計の中身が変わってたとしても、砂時計をひっくり返す。止まった時間を動かしてみる。

舞香、エレン、太結以外、棒を落とす。

【照明…ブルー】

【音響…BGM ラデツキー行進曲 IN】

蕾花、美鈴、以外は棒を立てる。

【音響…BGM ラデツキー行進曲 OUT】

○現在B1

【照明…地明かり】

放課後の学校。

【音響…子供達の声】

蕾花 有田先生！

美鈴 (ビクツとして) え？

蕾花 相変わらず、好きなんですね。お花。

美鈴 ……。あなたは？

蕾花 わかりませんか？

美鈴 えっと。

蕾花 川の流れ部の！

美鈴 川の流れ部。

蕾花 忘れるわけじゃないですよね？

美鈴 野毛、蕾花さん？

蕾花 はい。

美鈴 どうして？

蕾花 私、隣の、先生になったんですよ。

美鈴 北高(きたこう)の？

蕾花 そうです。で、西高(にしこう)にまだ先生がいるって聞いたんで、会

いに来たんです。

美鈴 そう。そしたら、職員室にでも。

蕾花 ああ、大丈夫です。有田先生にはお花をいじってもらった方が話し

やすいんで。

美鈴 何か話が？

蕾花 あ、その花。えーとあれですよ？ エリンジューム。

美鈴 知ってるの？

蕾花 昔から好きだったじゃないですか、その、トゲトゲイガイガ、青くて面

白いやつ。

美鈴 そうね。そうだったかも。よく覚えて。

蕾花 忘れるわけないじゃないですか。

美鈴 川の流れ部。

蕾花 私、部長ですからね、これでも一応。

美鈴 そっか。そうね。私とあなたで、始めたんだもんね。

蕾花 そうですよ。川の流れ部。命名は有田先生ですからね。

美鈴 え？ 嘘？ 野毛さんでしょう？

蕾花 違いますよ。先生が、放課後、裏山の先の川でぼーっとしてる私見つけて言ったんですよ。「やることないなら私とあなたで部活を作ってみない？」って。「川の流れみたいにな、流されるままでいいじゃない？ 放課後、川に来ることだけ決めましょう？ あとは自由。花を見てもいいし、釣りをしてもいい、絵を描いてもいいし、時には笹舟を流すのもいい。」そんな部活にしましょうって？

美鈴 私も若かったのね。我ながら恥ずかしい。

蕾花 先生嫌われてましたからね。

美鈴 え？

蕾花 先生というか、先生が教えてた「生物」の授業が。

美鈴 ああ。

蕾花 だってほとんどの人が受験に使わないんですもん。

美鈴 そうね。

蕾花 でもこんなにテレビで話が出ると思ってませんでした。

美鈴 ウイルス？

蕾花 はい。先生。あの頃から「ウイルスの起源」の話してましたよね？

美鈴 ヤケクソだったのかな。受験に関係ないって言われるならとことん関係ないこと話してやろうなんて。

蕾花 さすが川の流れ部の創始者だけありますね。

美鈴 やめてよ。

蕾花 ウイルスの起源。説其の一。病気の原因となる大きな微生物。たとえば細菌などが退化して生まれたものというもの。説其の二。地球が誕生したのがおよそ46億年前。一番古いDNA生物が出現したのはおよそ38億年前。それまではDNAでなく、RNAの世界。現在の生物はすべてDNAを持つ

ているけれど、ウイルスだけは例外でRNAを持っている。つまり過去の遺物ではないかというもの。説其の三。細胞の遺伝要素の一部分が、ポーンと細胞から飛び出したさまよえる遺伝子こそがウイルスだというもの。

美鈴 そんな話よく覚えて

蕾花 先生は覚えてないんですか？

美鈴 覚えては、いるんですけど。やっぱり記憶が曖昧でね。

蕾花 世界が白くなった日ですか？

美鈴 うん。空からミサイルが降ってきて、なんてみんな言ってるけど。私は全然実感なくて。気づいたらあなたたちがお見舞いに来てくれてて。

蕾花 あそこで川の流れ部は解散しましたからね。

美鈴 そうね。

蕾花 本当にあの日前後の記憶がないんですか？

美鈴 お医者さんは一生戻らないんじゃないかって。

蕾花 そうなんですね。

美鈴 でもどうして？ ウイルスの話なんか。

蕾花 ふと思いついたんですよ。さまよえる遺伝子の話。過去の遺産の話。退化の話。世界はウイルスによって白くなった、なんて言われてますよね？ これって退化じゃないですかね？ 地球という宿主に寄生する人間が、寄生レベルを上げるためにどんどん退化していつてる。だから人類は色を失った。先生は色と一緒にちよつとだけ記憶も無くなったみたいですけど。

美鈴 面白い考え方ね。

蕾花 本題です。

美鈴 本題？

蕾花 もしかしたら、私たちも退化してる。

美鈴 退化？

蕾花 フェイクファントムが活動を再開してるみたいなんですよ？

美鈴 どういうこと？

蕾花 ここだけの話にしてもらえますか？

美鈴 ……ええ。

蕾花 5日前、駅前の公園で1人の政治家が暴行を受けた事件知ってます？
意識不明の重体だって。

美鈴 もちろん。この辺りの学校の先生なら、周知されてるでしょう？ 生徒

たちに夜道に気を付けてって。

蕾花 そうです。私、実はその事件の第一発見者なんです。

美鈴 え？ でもニュースでは第一発見者はタクシートの運転手さんだって。

蕾花 私、通報しなかったんです。

美鈴 どうして？

蕾花 これ。

蕾花、紙を広げる。

3本の波線の上にそれぞれ丸が1つずつ乗っているデザイン。

蕾花 3本の波線に、丸。覚えてますよね？ 私たちのマークです。

美鈴 どうして？

蕾花 どうしてかはわかりません。でも、このマークを使うのは、私たちだけのはずです。

美鈴 そう、かもしれない。

蕾花 私たちの誰かが、またあの時と同じことを始めようとしている。

美鈴 マークを残してるのは？

蕾花 何かのメッセージなのかもしれません。……先生！

美鈴 何？

蕾花 手伝ってもらえますか？ 私、またみんなに会わなきゃいけない。

美鈴 ……こんなことを言うのはアレだけど。

蕾花 何ですか？

美鈴 あなたは、あの子達を恨んでたんじゃないの？

蕾花 ……恨んでなんかないませんよ？ 羨んでただけです。

2人以外、棒を落とす。

【音響…BGM ムーアサイド組曲 マーチ IN】

【照明…ブルー】

愛論以外、棒を持って漂う。

美鈴は真ん中で棒を持って立つ。

○現在B2

とある場所。

愛論、歩きながら話す。

【照明…地明かり】

愛論 えー？ どうしてかって？ んー、そうだなー。もういいかなーって思ったのかなー。いくら何をどうしたって、戻ってこないものは戻ってこないというか。…：げ？ 1から？ 1からって言われても、何を1とするかって難しくない？ 1から話す場合、0から1にある0・1とか0・2とか、そういう私が計算するの苦手な、でも大切な数字たちを無視しろって話？ じゃあ、うーん。0・6くらいで！ その辺からいい？ 私は、いや、「私たち」は、生まれた時から不幸？ みたいな感じで。碌でもないお父さんと、碌でもないお母さんの元に生まれて、ろくに可愛がられもせず育ってきて。んー、なんだろ？ 手っ取り早い話、虐待を受けてた？ 殴る、蹴る、犯される、そんな生活。でも唯一救いがある。それが、学校に行かせてもらえたこと！ 学校？ 楽しいわけじゃないじゃん？ 私勉強嫌いだし。でも、家、以外の場所は基本楽しかったってことかなー。旅行に行く時って、なんか開放的な気分にならない？ 学校はそんな気分になれるところ、かなー。

【音響…BGM ムーアサイド組曲 マーチ OUT】

涼照、棒を落とす。

愛論、涼照の元へ駆け寄る。

○回想1

【照明…地明かり】

【音響…ゲームセンター】

愛論 そんな中で出会ったのが涼照ちゃん！ 中学1年生の春。何にもできなかった私、いや私たちは、なんの部活にも入らなかった。暇で暇でいつもウロウロしていたゲームセンター。シューティングゲームの横の椅子。涼照ち

やんはそこにいた。

【音響…学校】

涼照 愛論は、すぐに誰とでも仲良くなって。先生にも気に入られて、中学入って初めての中間テストでも、ゼーんぶ平均点以下だったのに、ちゃっかり内申点は3をもらって。麗羅と私は、「どうして愛論はうまいことできるんだろうねー」なんて笑って話してて、3人でいるのが大好きで。

愛論 3人とも同じ高校に入って、私はそこで、エレンちゃんっていうとって、も強く輝く星を見つけて。エレンちゃんなんでも出来る子で、欠点がなくて、なんかずっと一緒にいたくって。エレンちゃんが入った川の流れ部っていうよくわかんない部活に私も入って。でもエレンちゃんのことを追っかけすぎてて、私は麗羅と涼照ちゃんのことをすっかり忘れてて。

涼照 愛論の目に自分が入ってないことは、どう見ても明らかだったから、私と麗羅は2人で身を引くつもりだった。

【音響…ゲームセンター】

涼照 あの頃と同じように、同じゲームセンターで同じような3年間を過ごす予定だった。そんな時に一人仲間が増えた。それが葵音だった。

葵音、棒を落とす。

葵音 ゲームセンターの雑音の中で、涼照と麗羅の声だけはなぜだかとっても耳心地が良くて、同じ制服だったから、何か、運命を感じて、私は2人に話しかけた。

涼照 葵音は私の知らない世界を知ってた。ゲームセンターの外に連れ出してくれた。2時間かけて東京に連れてってくれた。

【音響…東京】

涼照 こう言ったらなんだけど、もうあんなところには戻りたくない。そう思

えるくらい、清々しく故郷を嫌いになれるくらい、私は東京が好きになった。葵音 秘密を共有した気になった。だって、あそこでは、私にとって当たり前なことが、2人には当たり前じゃなくなる。気持ちが良かった。東京を知ってるのは私たち3人の秘密。

愛論 私は、川の流れ部に夢中で。涼照ちゃんに会うことはなくなっていたんだけど。高校1年生の夏。涼照ちゃんから急に連絡が来た。

涼照、歩きながら、愛論に電話をかける。

愛論 もしもし。久しぶりだね。どうしたの？

涼照 愛論、助けて。

愛論、涼照、葵音、以外、棒を落とす。

【照明…ブルー】

【音響…BGM ラコツイ行進曲 IN】

全員、漂う。

布に隠れる愛論、エレン、太結。

【音響…BGM ラコツイ行進曲 OUT】

○回想2

【照明…地明かり】

【音響…蝉の声・鳩・森】

学校の裏山。

布の塊の上に座る舞香。

その手には鳩を抱えている。

蕾花、美鈴、涼照、葵音、棒を持って並ぶ。

舞香 ねえ。キミも、その羽根が治ったら、私の元からいなくなっちゃうの？
私さ、なんかね、みんなから、嫌われてるみたいなんだ。

布の裏から声を出す愛論。

愛論 (声を変えて) そんなことないよ！
舞香 え？

愛論、出てくる。

愛論 (声を変えて) 舞香ちゃんは、嫌われてないよ！

舞香、驚く。

愛論 あ、ごめん驚かしちゃった？

舞香 赤星さん？

愛論 愛論でいいよ。3組の舞香ちゃんでしょ？ 昴舞香ちゃん。

舞香 うん。でも、どうして？

愛論 うちの学校で舞香ちゃんのこと知らない子はいないでしょ？ ウチの学校。どうか、この辺？ 東京から来た天才女子高生画家さんだから。

舞香 天才なんかじゃないよ。

愛論 そうなの？

舞香 そうだよ。

愛論 じゃあ秀才なんだね。

舞香 いや、そういう意味じゃなくて。

愛論 じゃあ？

舞香 すごいのは親。親がすごいから昔からやらされてただけ。

愛論 でもすごいじゃん！ 私は何にもできないからさー。

舞香 何にもできない？

愛論 私バカだし、運動もできないからさー、得意なことがある人っていないな
ーって思うよ。

舞香、遠くを指差す。

愛論 何？

舞香 この裏山で一番高い木。

愛論 うん。

舞香 あそこのてっぺんにね、いっつも。
愛論 うん。

舞香 いっつも私の何かがあつてき。

愛論 何か？

舞香 最初は上ばきだったかなー。その後は筆箱。体操服の日もあつたなー。

愛論 それって。

舞香 ね？ 嫌われてるでしょ？ 思うんだよね。この裏山がなかったら、そ

んな風にはならないのかなーって。でもきつと裏山がなかったら別の場所になるだけだよ。結局私がいるから。

愛論 誰！

舞香 え？

愛論 誰がやったの？

舞香 なんて？

愛論 許せないよそいつ！ 私が殺してあげる！

舞香 なんて？

愛論 なんて？

舞香 だって、私、赤星さんと。

愛論 愛論ね！

舞香 愛論さんと。

愛論 愛論、ね！

舞香 ……愛論と何にも関係ないから。

愛論 関係なくない？

舞香 え？

愛論 関係ないとか関係あるとか関係なくない？ ムカつく奴はムカつくじゃ
ん？

舞香 ……。

エレンと太結が現れる。

エレン 何してるの愛論？

愛論 あ、ごめん。ちよつと。

エレン えーと。昴さん？

舞香 はい。

~~エレン ここは何を？~~

舞香 え？

愛論 ねえ、エレンちゃんは舞香ちゃんのこと嫌いじゃないよね？

エレン え？

愛論 嫌いじゃないよね？

エレン 嫌いじゃないよ。

愛論 太結ちゃんも！

太結 嫌いも何も、あんまり知らないし。

愛論 舞香ちゃん、川って好き？

舞香 川？

エレン、舞香にスマホを見せる。

舞香 何？

エレン これ。あなたのアカウントでしょ？

舞香 ……。

エレン そこから見て描いたのがこの川？

愛論、絵を覗く。

愛論 え？ これ川なの？ なんか凄すぎて私わかんないや。

エレン 太結は？ わかる？

太結 いや、なんか緑の線がたくさんあるようにしか。

エレン でも川でしょ？ これ。そこからの。

舞香 なんでわかるの？

エレン 私ね、そういうのわかっちゃうの。

愛論 エレンちゃんはなんでもできるんだよ？

舞香 なんでも？

愛論 そう！ なんでも。勉強も塾の最初の模試で1位だったし、運動も得意

だし、足速いし、楽器も弾けるし、英語もしゃべれるし、絵も上手だし、いろいろ知ってるし。

舞香　すごいね。

エレン　全部親にやらされてるだけ。すごくない。それに英語は親が喋ってるから喋れるだけ。

舞香　親が？

愛論　エレンちゃんのお父さんイギリス人なんだよ！　すごいよね？

エレン　すごくないでしょ別に。誰から生まれてきたってすごくない。ね？

舞香　え？

エレン　天才写真画家の娘だってすごくない。

愛論　えー、すごいじゃん。

エレン　すごいなの？

舞香　すごくない。

エレン　（笑って）ね。

愛論、エレンの顔を見る。

愛論　舞香ちゃんも「川の流れ部」に入りなよ！

舞香　え？　川の？

愛論　「川の流れ部」！

舞香　何それ？

愛論　なんだろうね？

舞香　え？

愛論　放課後に川に来て、好きなことする部活！　私はね、虫を捕まえる。

舞香　虫？

愛論　蝶とか蝉とか、てんとう虫とか、カマキリとか、捕まえたら、一緒に遊んで、それで逃す。

舞香　虫。

愛論　嫌い？　虫。

舞香　まあ。

愛論　みんな嫌いなんだよなー。

舞香　え？

愛論　私以外みんな虫が嫌いなの。

舞香　そうなんだ。

愛論 太結ちゃんは本を読んてる。

太結 本が好きだからね。

愛論 太結ちゃんが読んでる本はね、難しくて全然わかんないんだよ。

舞香 ミステリーとかってこと？

愛論 違う。なんか勉強みたいなやつ。

舞香 勉強？

エレン 自己啓発本。

舞香 自己啓発。

太結 いや、ほら。「自己肯定感の高め方」とか「嫌われても怖くない」とか。

舞香 ああ。

太結 私、なんか、どう生きたら、とか、よくわかんないから、そういうの読むの好きなんだよね。

舞香 わかるよ。

太結 本当に？

舞香 うん。

愛論 舞香ちゃんも好きなの？

舞香 好きってほどではないけど、頼りたくなる気持ちはわかる。

エレン 昴さんは、絵を描けばいいよ。

舞香 絵を？

エレン 私、写真を撮るのが好きなんだけどね。

舞香 うん。

エレン なんで好きかっていうと、「切り取る」のが好きだから。

舞香 切り取るのが、好き。

エレン そう。例えばそこにタンポポが咲いてるでしょう？

舞香 うん。

エレン でもここからなんとなく見ると、タンポポはその辺にある雑草。

舞香 まあ、そうだね。

エレン それをね。

エレン、タンポポを撮影して舞香に見せる。

エレン ね？

愛論 本当だ！ 綺麗に見える！ さすがエレンちゃん！ ね！

太結 うん。

舞香 うん。すごいよ。

エレン でしょ？

舞香 本当にすごい。琥珀さんは、本当に切り取るのが上手なんだね。

エレン エレンでいいよ。

舞香 あ、うん。

エレン 写真はね、親にやらされてたわけじゃないから。

舞香 そうなんだ。

エレン この川の絵は素晴らしいけど、あそこから描いちゃったのは失敗。

舞香 え？

エレン もう少し切り取り方が違えば、みんなもわかる素晴らしい絵になる。

舞香 切り取り方。

エレン ねえ、私が切り取るからさ、描いてみない？

舞香 ……。

愛論 エレンちゃんがこんなこと言うなんて本当に珍しいんだよ！ エレンち

ゃんなんでもできるから全部自分でやっちゃうから、私には何にもやらせて

くれないんだから！

エレン 愛論に任せるとめっちゃくちゃにするからでしょ！

愛論 う！ 好きでめっちゃくちゃにしたんじゃないよ！

太結 愛論は、張り切ると大抵失敗するからね。

愛論 太結ちゃんもそういうこと言う〜。

エレン ねえ。どうせ暇なんでしょ？ 昴舞香という人間を私に切り取らせて

よ？

舞香 私を切り取る？

エレン 人は人に会うときに人を切り取って捉える。切り取り方が下手な人は

人間関係がうまくいかないの。悪いところばかり切り取っちゃうから。私、

昴舞香を綺麗に切り取るから。

舞香 ……うん。わかった。じゃあ、ちよっと、切り取られてみるよ。

エレン ちよっと、で済むかな？ 切り取られたら、それが全てになるよ？

舞香 それでも、面白いなら、いい。

愛論 私は？ 私は切り取ってくれないの？

エレン 愛論は、必要ないでしょ。

愛論 なんですよ！

舞香 そっか、愛論……は、切り取る必要ないのか。

愛論 何が「そっか」なの？ どういうこと？

舞香、エレン、太結、笑って顔を見合わせる。

愛論 え？ なんで笑ってるの？ え？ なに？ どういうこと？ どういうこと？ どういうこと？

蕾花、美鈴、涼照、葵音、棒を落とす。

【照明…ブルー】

【音響…BGM シューベルト軍隊行進曲 IN】

愛論、蕾花、美鈴、葵音、エレン、棒を持って並ぶ。

【音響…BGM シューベルト軍隊行進曲 OUT】

○現在A2

【照明…地明かり】

駅前。

【音響…駅前】

涼照、舞香にもたれかかって泣く。

舞香 ごめん。

太結 ちよつと、涼照。みんな見てるから。

涼照 ごめん。なんか、びっくりしちやって。

太結 舞香が悪いよ。5年もいなくなってる。

舞香 そうだね。

涼照 どうして、太結は会えたの？

太照 あ、それ聞きます？

涼照 ごめん。ダメだった？

舞香 確かに。そういえばどうやって私の居場所？

太結 探偵を使いました！ お金はエレンが出してくれました！
舞香 え！

涼照 すごいね。

太結 どうしても会いたかったからね！

舞香 そこまでして。

太結 エレンのためならそこまでするよ私は。

涼照 エレンのため？

太結 舞香が心配だったからね。

涼照 聞いた。入学してすぐ美大中退したって。

舞香 まあ。

涼照 どうして？

舞香 描けなくなっちゃったから。

涼照 麗羅が死んじゃったから？

舞香 いや。どうかな。

涼照 愛論がいなくなっちゃったから？

太結 ここで話すのもなんだしさ、喫茶店でも入る？

涼照 あ、うん。そうだよね。

舞香、太結、涼照、歩き出す。

愛論、蕾花、美鈴、葵音、エレン、棒を持って動く。

【音響…街中】

涼照 人って不思議だよね。

太結 え？

涼照 人って慣れる生き物なんだなーって。

太結 ああ。会うの久しぶりだと、余計そう感じるかもね。

涼照 こうやって街を歩いてても、5年前とは何もかもが違う。信号もそう。

昔は赤青黄色。でも今は、進む、注意、止まれ。国旗なんてすごいよね？ フ

ランス、イタリア、アイルランド、ルーマニア、ベルギー。全部一瞬同じに

なっちゃったし。

太結 確かに。色がないってこんなことになるんだーってびっくりだね。

涼照 世界をこんな風にしたやつは、何が目的なんだろうね？

太結 案外私たちと同じかもよ。
涼照 え？

太結 私たちがフェイクファントムだった理由とき。

涼照 そうなのかな。

舞香 同じじゃない。

太結 え？

舞香 色の濃淡で、多少はわかる。

太結 色の濃淡？

舞香 国旗の話。

太結 あー。国旗の方か。やっぱりわかるんだ。

涼照 私には同じに見えちゃってたな。

舞香 もし世界を白くしたかった人と、まあそんな変なテロリストがいたかはわからないけど、都市伝説じゃなくて、本当にいたとしたら、もしかしたら、私たちと同じ理由でそうしたのかもしれないけど。きっと濃度が違うよ。

涼照 濃度が違う。思いの強さってこと？

舞香 私たちは、世界を変えるとか、そういうことはできなかったから。

涼照 やっぱり、世界が白くなったから、描けなくなったの？

愛論、蕾花、美鈴、葵音、エレン、棒を立てる。

喫茶店に入る。

【音響…喫茶店】

一瞬止まる3人。

太結 あ、3人で。

動き出し、席に着く。

舞香 涼照は今、何してるの？

涼照 別に。普通だよ。

舞香 普通って？

涼照 太結と同じ。普通の会社員。

太結 普通かなー。私は事務だから普通だけど。涼照は、イベント屋さんだから

らなー。普通っていうのかなー。

涼照 普通だよ。

舞香 イベント？

涼照 ファッションショーとか。モーターショーとか、技術展とか。

舞香 意外だね。

涼照 そうかな。

舞香 うん。

涼照 うん。川の流れ部でき、みんなでバーベキューしたでしょ？ 私、あの時、エレンに言われて、私が色々まとめてたんだけど、そういうのが楽しくて。うん。そういう、みんなが楽しんでることを、支えたいなって思ってる。

それで、大学では、そういう、イベントサークルみたいなのに入って。

舞香 それも意外。

涼照 その時は自分でも怖かったんだけど、でもなんか、一気にそこで世界が広がった気がしてね。世の中にはいろんな人がいていろんな考え方をしているんだーって。みんな旅行行ったり、ダーツしたり、遊園地行ったり、そういうのが、楽しくてさ。

舞香 太結、帰ろう。

太結 え？

涼照 どうしたの？ だって話あるって。私まだ聞いてない。

太結 そうなんだけど。

舞香 私、世界が白くなったから、色がなくなったから、描けなくなったわけじゃない。確かに、私は、独特な色使いだねって言われて、それで有名になった。でもね、違うの。それだけじゃそうはなれなかった。だってそうじゃない？ お蕎麦やさんでさ、「この蕎麦屋はめんつゆがとっても美味しいんです！」って、それで有名になって、それは確かに嬉しいけど。お蕎麦やさんだから、私、おつゆにももちろんこだわってますけど、私作りたいのお蕎麦ですからー！って、毎日お蕎麦打ってますけどー！ 私、単純に、有名とかそんなのどうでもよくて、ただ絵が描ければいいと思って、そう思ってた、美大に入った。

涼照 ごめん。

舞香 私が描けなくなったのは、フェイクフロントムがなくなったから。

涼照 え？

舞香 愛論が、いつつも私を引っ張ってくれて、エレンが、いつつも私を切り取ってくれた。だから描けた。私にとつてのお蕎麦は、命。命が消えるから、私はその命を、キャンバスに描けた。

涼照 そうだよ。舞香が有名になったのは、フェイクファントムに入ってからだった。それまでは有名なのはお父さん。お父さんは写真画家さんだったけど、舞香の絵は抽象的だったし。

舞香 私、フェイクファントムじゃなきゃ、絵が描けないみたい。

涼照 フェイクファントムを、もう一回やろうとしてたの？

太結 あのね、話す順序が変になっちゃったんだけど、もともとはエレンがね、舞香と絵を描きたいって言って。でね、舞香はそれに協力してくれようとして、あの、エレン、なんか、月虹病って言うのになっちゃって。知ってる？　なんか、体が弱ってって、1年くらいで死んじゃうっていう。だからもう先が長くなって。でも舞香には何か見えてるみたいで。

涼照 そう、だったんだ。あの、舞香、

舞香 でもわかってる。わかってた。フェイクファントムを再結成したら、みんな不幸になるよね。涼照は今、幸せそう。巻き込めない。行こう、太結。太結 ごめん。店員さんには私、謝っとくね。

舞香、太結、去ろうとする。

涼照 巻き込まれるなんて思わないよ。

太結 涼照？

涼照 愛論だったら、絶対そう言うと思う。

舞香 愛論だったら？

涼照 愛論だったら、こんな時、笑いながら、「じゃあ、舞香ちゃんがいっぱい絵を描けるように、いっぱい殺そう」って。無邪気に、そう言うと思う。

太結 言うかもね。

涼照 愛論だったら、こんな時って、いつつも考えてたの。イベントサークルに入った時も、新人歓迎会でお酒を勧められた時も、初めてクラブに連れてかれた時も、イベント会社に入社した時も、帰れない日が3日続いたり、帰れなくても毎日タクシーだったりした時も、愛論だったら、愛論だったら笑うのになって。愛論だったら、うまくやれるんだろうなって。きっと麗羅がまだ生

きてて、横にいたら、同じ風なことと思って、「すごいね愛論は。」っていうんだろうなって。思ってた。さっき、普通って言ったけど。本当は、今、私、普通じゃないかもしれない。

太結 普通……じゃないよ。三日帰れないとか。タクシー帰りとか。

涼照 でも、周りの人とか、先輩とか、普通って言うから、普通なのかなって、ずっと考えてて。

太結 その人たちが麻痺してるんだよ。

涼照 あの時の方が、高校3年間の時の方が、私たち、世間的には間違ってたのかもしれないけど、あの時の方が、自信を持って自分が正しいって思ってた。

舞香 そうだよ。あの時の私たちは正しかった。愛論は、エレンは、正しかった。世界が、間違ってただけ。

涼照 世界が、間違ってた。

太結 もしかしたら世界が間違ってたから、世界は白くなったのかもね。

愛論、蕾花、美鈴、葵音、エレン、棒を落とす。

【照明…ブルー】

【音響…BGM ラデツキー行進曲 IN】

蕾花と美鈴以外、棒を立てる。

【音響…BGM ラデツキー行進曲 OUT】

○現在B3

【照明…地明かり】

お祭り。

【音響…お祭り】

【音響…BGM ドビュッシー アラベスク IN】

短い棒を持つ2人。

美鈴 綿あめって、噛む？

蕾花 噛みませんね。

美鈴 昔、好きな人とお祭りに来た時にね、その人はずっと綿あめを噛んでた

の。

蕾花 噛めなくないですかそれ。

美鈴 うん。でもそれがいいんだって言った。甘い綿あめが、その人にとっては私で、噛もうとするんだけど、その度溶けてなくなっちゃうその感じがいいんだって。

蕾花 よくわかんないですね。私は噛むときはしつかり噛みたいんで、ご覧の通り、りんご飴派です。

美鈴 たまにはいいねーお祭りの雰囲気も。

蕾花 久しぶりなんですか？

美鈴 その人とぶりだよ。

蕾花 いつですかそれ。

美鈴 15年くらい前かなー。

蕾花 先生何歳ですかそれ。

美鈴 高校生。16歳かな。

蕾花 お祭りぐらい来る機会あったでしょう？

美鈴 ね。あってもおかしくないんだけど。騒がしいのは得意じゃないから、連れてこられないと、なかなかね。

蕾花 そういうもんですかねー。騒がしいといえば、騒がれますね。「パパ狩り」。フェイクファントムの再来かって。

美鈴 これでもう4人が被害にあってる。あなたがマークを隠したのは無駄だったみたい。

蕾花 なんで今更。

美鈴 わからない、けど。

蕾花 けど？

美鈴 戻りたいんじゃない？

蕾花 戻りたい。

美鈴 キラキラしてたあの頃に？

蕾花 間違ってますね。

美鈴 え？

蕾花 大人になるとキラキラが失われるなんて、そんなことないですよ。

美鈴 そう？ でも、時がたてば人はくすんでいく。お肌と一緒。

蕾花 お肌の話は耳が痛いのでやめてください。

美鈴 見た目も中身も、失われていく、枯れていく。

蕾花 そう思ってるから、そうなっちゃうんですよ。私、現在進行形で輝いてるつもりなんです。

美鈴 逆なのかもね。

蕾花 逆？

美鈴 「あの頃」がくすんでいる子の方が大人になってから、輝けたりする。

蕾花 どういうことですか？

美鈴 学生の頃って足の速い子がモテたでしょ？ その子たちは学生の頃キラキラしてた。でも、お勉強ができて、いわゆるガリ勉くんみたいな子はくすんでた。青春時代に青春ができないと青春の亡霊になって、死ぬまで青春を追い続けるから、ある意味ずっと青春できる。青春時代に青春しちゃうとそこがピークになってくすんでしまう。

蕾花 教師らしからぬ発言ですね。

美鈴 今日はお休みの日だから、許してね。

蕾花 いいですけど？ でも世の中にはエレンみたいに勉強もスポーツも芸術も全部できる人、ずっとキラキラしてる人もいますよね？

美鈴 そうね。でもそういう人は特殊だから。

蕾花 特殊だとなんなんですか？

美鈴 物事にはなんだって原則と例外があるでしょ？ 例外の話をしてもしキリがないの。私は原則に従って生きてる人間だから。

蕾花 だから、ですか？ 川の流れ部とか、生物の受験に関係ない話とか、そういうの、全部捨てちゃったのは。

美鈴 捨てたんじゃないの。失くなっちゃったの。無くしちゃったの。

蕾花 大人になっちゃったんですね。悪い意味で。

美鈴 なるよそりゃ。あなたたちと出会ってからもう、8年経ってるんだから。

蕾花 ニュースを見てて思うことがあります。

美鈴 何？

蕾花 8年前との違いです。フェイクファントムとの違い。

美鈴 何？

蕾花 確実に捜査の進行が早いです。あの頃と手口は同じはずなのに、あの頃は全く手がかりも掴めなかった警察が、今回はだいぶ、進んでいるような。

美鈴 そうみたいね。

蕾花 あのと、あれ、どうですか？ 連絡先とか居場所とかってわかりましたか？

美鈴 もう少し待ってね。多分、もう少しでわかるから。

蕾花 本当ですか？

美鈴 5年前に亡くなった小根山麗羅さん。そこから辿れそう。

蕾花 麗羅から……。

美鈴 ねえ。

蕾花 はい。

美鈴 せっかくだからお好み焼きも買わない？

蕾花 どうして。

美鈴 久しぶりのお祭りで、楽しいから。

蕾花 わざわざお祭りの日に会わなくても良かったんですけどね。

美鈴 せっかくだからって。考え方、大事だと思うなー。

蕾花 楽しめる気分じゃないんですけどね。

美鈴 いいから、いいから。

【音響…BGM ドビュッシー アラベスク OUT】

全員、棒を落とす。

【照明…ブルー】

【音響…BGM ムーアサイド組曲 マーチ IN】
蕾花と美鈴以外、棒を立てる。

○現在B4

とある場所。

愛論以外、棒を持って漂う。

愛論、歩きながら話す。

【照明…地明かり】

愛論 涼照ちゃんが、葵音ちゃんが、麗羅が、困ってたから、みんなを困らせた奴を殺してやろうと思ったんだよねー。でも、私、気づいちやったの。原因はそいつじゃないんだって。エレンちゃんも言ってた。結局原因は人間の本能的な部分にある気持ち悪い何かなんだって。その気持ち悪い何かを人間

は抑えながら生きてるんだけど、これは病気みたいなもので、それがふとした拍子に出てきちゃうと、もうダメなんだって。ゲームのバグみたいなもの。だからバグは消さなきゃいけない。綺麗な世界にしていかなきゃいけない。だってその気持ち悪い何かが無くて、人の世界は成り立つんだよ？ マリア様からキリスト様は生まれてくるんだよ？

○回想3

全員、棒を落とす。

【音響…BGM】ムーアサイド組曲 マーチ OUT】

【照明…ブルー】

【音響…BGM】ラコッツイ行進曲 IN】

美鈴、布の裏へ。

全員、棒を拾う。

【音響…BGM】ラコッツイ行進曲 OUT】

【照明…花火】

【音響…BGM】モルダウ IN】

【音響…川】

花火。「その火もーらい」「綺麗だねー」等花火で無邪気に遊ぶ様子のフェイクファントム。

【照明…地明かり】

蕾花 葵音、本当は織仁先生と花火したかったんじゃないの？

葵音 え？

愛論 なになに〜何の話？

蕾花 葵音、織仁先生のこと好きなんだよ。

愛論 えー！

葵音 ち、違う。

エレン 織仁先生？

舞香 古典の、堤先生。

エレン あー、えー、おじさんじゃん。

涼照 どうして？

葵音 だから、違うって。

蕾花 だってこの間、一緒にお祭りにいるの見たよ？

愛論 うそ〜！

葵音 あれは、相談に乗ってもらってたというか。

エレン 相談？

葵音 クラスに川の流れ部いないし。私、お昼ご飯一人で食べてたら、話しかけてくれて。相談乗るって。それで。

舞香 へー、意外と優しいところあるんだね。

蕾花 なんか、あの先生も、昔、ひとりぼっちだったとかで、そういう生徒見るとほっとけないんだって。

愛論 いいおじさんもいるんだねー。私最近悪いおじさんばかり見てるから不思議な気分だよー。

葵音 だから、別に好きとかそういうのじゃないから。

蕾花 なーんだ。つまんないの。

葵音 それに、決めてるから。涼照のことがあつてから。どんなに優しくても、男の人は二度と信用しないって。

涼照 そうだね。私も、もう二度とあんな思い、したくない。……本当に、みんな、ありがとう。

愛論 お礼なんていらんいらん！ 私たちは運命共同体！ 世界を正すヒーローだよ！

蕾花 川の流れ部ってそんな部活だったの？

愛論 なんでもいいじゃん！ 何をしてもいいのが川の流れ部でしょ！ ね！ 部長！

蕾花 部長の権限何にもないんですけど。

舞香 今日、花火買ってきてくれた。

蕾花 有田先生がお金くれたからね。夏は花火だよねって。

太結 そういえば麗羅は？ こないの？
愛論 なんかお父さんに呼ばれちゃった。

太結 そうなんだ。

蕾花 言っておくけど麗羅は正確には川の流れ部じゃないからね。
太結 え？

蕾花 入部届だしてないし。

葵音 私は部活とかはいって言って。
菫花 だから運命共同体でもないの。
愛論 そんな寂しい事いふなよー。みんな一緒でしょー。
舞香 麗羅も入ればいいのに。
愛論 麗羅は、特別だからね！
舞香 特別？
愛論 私たちがヒーローなら、麗羅はヒロインだから！ 麗羅は多分ラスボスを倒さないと助けてあげられないの。
舞香 ラスボス？
エレン 人間にバグを与えた張本人じゃない？
舞香 神様？
愛論 そうかも！
葵音 愛論は、どうしてそんなに明るいの？
愛論 え？ 理由とかはない！
エレン 愛論は最強だからね。
愛論 そう、私最強だから。
葵音 最強。

【音響・BGM モルダウ OUT】

エレン ねえ知ってる？ 女子高生集団によるパパ狩りが、世間でなんて言われてるか。
葵音 リトルファントムの再来。
涼照 リトルファントム？
太結 なにそれ？
菫花 15年前にあった女子高生売春グループだって。政治家とか大企業の偉い人とか芸能人とか、やばい人たちの弱みを握って大きくなってっらしいよ。
太結 へえ。
エレン 私たちとは違う意味で、世界と戦おうとした。そのリトルファントムのリーダー、山口ミカ。パパ狩り集団のリーダーはその再来だって、カリスマだって言われてる。愛論は山口ミカの再来。

葵音 山口ミカ。中学生の時に知って、すごい好きだった。

涼照 何で知ったの？

葵音 漫画。

涼照 漫画になってるの？

葵音 なんか伝説の人みたいになってるから。いっぱい創作とかがあって。

涼照 そうなんだ。

葵音 愛論は、その再来なんだね。

愛論 いやー、カリスマの再来だなんて照れますなあ。

エレン 再来と言えば聞こえはいいけど、二番煎じだって言う人も中にはいて。

愛論 二番煎じ？

エレン 真似してる。偽物ってこと。だからフェイクファントムなんて呼ばれてる。

舞香 フェイク。贋作。オリジナリティーがないってこと？

エレン 世の中の一部の人たちはさ、似たものを探すのに人生を懸けてるんじゃないかってくらい、色んなものを何かに似てるって言いたがるからね。

愛論 私はフェイクでいいけどなー。

舞香 何で？

愛論 「本物」だってことって、そんなに大事かな？

蕾花 大事でしょ？

太結 大事かな？

エレン 「本物」って言葉は、確かに「本質」とはズレてるかもね。

愛論 エレンちゃん、むずい。

エレン 例えばモナリザの絵があるでしょ。その贋作。偽物があるとするでしょ？ でもどっちも絵でしょ？ 本質は見て楽しむこと。だから見て楽しむればどっちでもよくない？ ってコト。

愛論 おお！ そういうコトか！ そう、私はそれが言いたかった！

太結 さすが愛論！

蕾花 絶対嘘でしょ？

愛論 本質が見えてないねえお嬢さん。

蕾花 はいはい。

舞香 フェイクファントム。仮初めの亡霊か。なんか悲しいね。

エレン 所詮現世は「仮の宿り」だし、それもいいのかもね。

葵音 あのさ。

愛論 何？

葵音 マークとか、欲しいな。私達のマーク。

愛論 フェイクファントムの目印みたいなもの？

葵音 そう。

涼照 ログみたいなことか。

愛論 それいいねー！

エレン 面白そう。

薔花 待って！

愛論 何？

薔花 それ、私がやる！

舞香 薔花が？

薔花 そう。

太結 えー！ エレンと舞香にやってもらった方がよくない？

薔花 私、部長。

太結 でもフェイクファントムは愛論がリーダーだし。

薔花 でも川の流れ部イコールフェイクファントムでしょ！

愛論 わかった！ 川の流れ部イコールフェイクファントムだ！ じゃあ部長

に任せよう！

エレン 私は、別にいいけど。

舞香 私も。

太結 あんまり洗練されてない方が女子高生っぽくてかわいいしね。

薔花 いやみ？

太結 違う違う。

愛論 薔花ちゃんなら、私たちにぴったりのやつ作ってくれると思うよ？

そこに美鈴が現れる。

美鈴 ねえみんな。持ってきたよ。打ち上げるやつ。

はしゃぐ一同。

美鈴 川の流れ部。記念すべき初合宿を祝って、どかーんといきましょう。
全員 はい！
蕾花 先生、火つけてください！
美鈴 私はいいよ。見るだけでさ。
愛論 はいはい！ じゃあ私つける！
美鈴 うん。それがいい！
愛論 先生火つけるやつ！ カチってやつ持ってる？
美鈴 持ってる持ってる、

【音響…BGM 花火】

舞香 祝砲、かな。

全員、棒を落とす。

【照明…ブルー】

【音響…BGM ムーアサイド組曲 マーチ IN】

○現在B5

【照明…地明かり】

愛論以外、棒を持って漂う。
とある場所。

愛論 こうしてフェイクファントムは、どんどんその気持ち悪い何かと戦っていった。それと同時に舞香ちゃんがどんどん有名になってった！ どんどん絵を描いて、その独特の色使いが評価されて。なんか時々出てくるよね？ 女子高生アーティストって。私は舞香ちゃんを信じてたから、そのまま売れていくんだらうなって思ってたけど、同時にただ舞香ちゃんを消費していくような人たちのことは許せないって思うようになって。なんか似てるな！ っ？ 若い女の子に手を出そうとする男と、若い才能に手を出そうとする大人たちって。まあ結果、5年経って舞香ちゃんのはまるで無かった事みたいになってるっていう、今の世界は許せないんだけど。だって怖くない？

色使いが評価されて舞香ちゃんは有名になったけど、そもそも世界が白くな
ってから生まれた赤ちゃんは、もう色を知らないんだよ？

愛論以外、棒を落とす。

【音響…BGM ムーアサイド組曲 マーチ OUT】

【照明…ブルー】

【音響…BGM ショパン 葬送行進曲 IN】

○回想4

【照明…地明かり】

放課後。外へ出る美鈴を囲むファイクフロントム。

1人、端で佇む愛論。

エレン 先生。知ってるんですよね？ 愛論に何があったか？
美鈴 ……。

エレン 黙ってないで教えて下さい！

美鈴 ごめんなさい。

エレン 何が悪くないで教えて下さいか？

美鈴 私も、よくわかってなくて。

蕾花 先生！ 先生が知ってることだけでも教えて下さいよ！

舞香 愛論の様子。絶対おかしかった。

葵音 麗羅も、今日学校来てなかった。

美鈴 そのうち、説明があると思うから。

蕾花 先生、私たちのこと、信用してくれないんですか？

美鈴 え？

蕾花 「大人の事情」ですか？

美鈴 いや。

蕾花 私たちも、先生も、嫌いな言葉ですよ？

美鈴 ……そうね。あなたたちには。

エレン お願いします！

美鈴 また、詳しいお話は後日校長先生からあると思うけど。小根山さんが…

…、亡くなったの。

間。

葵音 麗羅が？

エレン どうして？

美鈴 ……それが、まだわかってないの。私もまた、これから警察に行かないといけなくて。

エレン 警察で話を聞かれるってことは麗羅は…。(美鈴と目を合わすエレン)

美鈴 (エレンを見た後、全員の顔を見て) ……みんなも、今日は早く帰って

ね。明日の学校のことも、きっと親御さんにご連絡が行くと思うから。

蕾花 先生。

美鈴 何？

蕾花 先生は大丈夫ですか？

美鈴 え？ 何で？ 私は、大丈夫。また、学校でね。私、行かないよ。

美鈴、去る。

間。

涼照 なんて麗羅が。

葵音 嘘だ。嘘だよ。どうして。

涼照 葵音。

蕾花 わからないことを考えててもしょうがないよ！ 帰ろう。何かあるかわからないし、フェイクファンタムのことだってあるし。

【音響…BGM 葬送行進曲 OUT】

愛論が現れる。

愛論 やあみんな！

エレン 愛論！

舞香 麗羅は？

愛論 あ、みんな知ってるんだ。みんなが知ってる通りだよ？ クソ親父に殺

されちゃった！

間。

愛論 みんな、ユダの接吻って知ってる？

舞香 え？

葵音 ユダ？

蕾花 ……キリストを裏切ったので有名なユダ？

愛論 うん。

太結 ユダなら知ってるけど、それがどうしたの？

エレン 愛論、何か、おかしいよ。

【音響・BGM モーツァルト トルコ行進曲 IN】

愛論 うん。おかしいかもね。あの有名な最後の晩餐の後、ユダは銀貨30枚でキリストを売り渡す時に、その合図、その人がキリストだっていう合図として、キリストにキスをした。それがユダの接吻。

愛論以外、愛論が話している間に、棒を拾っていく。

蕾花 裏切ったの？ 誰かが。

愛論 『「民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。」「また日と月と星とに、しるしが現れるであろう。そして、地上では、諸国民が悩み、海と大波とのとどろきにおじ惑い、』『人々は世界に起ろうとする事を思い、恐怖と不安で気絶するであろう。もろもろの天体が揺り動かされるからである。』』

エレン 絶対おかしいよ。いつもの愛論じゃない！

愛論 いつも通りで居られるわけじゃないでしょ！ 麗羅は死んだんだよ！

エレン そうだけど。

愛論 ユダの接吻を。

愛論、ゆっくり歩いて、エレンの元へ。

愛論、エレンにキスをする。ざわつく。

ざわつく者たちをよそに、舞香、蕾花、太結、葵音、涼照、へとキスをしていく。困惑。

太結 愛論？ これはどういうこと？

愛論 私にとっては、みんながキリスト。つまり太陽。ユダは私。

舞香 愛論が、自分で自分を裏切ったってこと？

愛論 まあ、そんなところかな。

舞香 わかんない。

愛論 フェイクファントムは、次で終わりになる。

舞香 次？

愛論 いいよね？ エレンちゃん。

エレン 何をしようとしているの？

愛論、棒を拾う。

愛論 別に？ 今まで通りだよ？ でも、ただ、次で、みんなが大人になるだけ。

全員、棒を落とす。

【音響…BGM モーツァルト トルコ行進曲 OUT】

【照明…ブルー】

【音響…BGM シューベルト軍隊行進曲 IN】

○現在A4

【音響…BGM シューベルト軍隊行進曲 OUT】

【照明…地明かり】

愛論、エレン、蕾花、美鈴、棒を立てる。

葵音、実家の部屋。

葵音、ぼーっと宙を見つめる。

涼照 麗羅が死んでから5年間。ずっとこんな感じだよ。

太結 そうなんだ。涼照は、ずっと葵音に会いに来てたの？

涼照 休みの日だけだけどね。でも疲れちゃってて、横で寝てたりするんだけど。私、葵音の気持ち、すごくよくわかるから、葵音、本当に麗羅の事好きだったから。だから、気持ちがわかるから、私、来れる時はここにしようと思ってる。横にいるだけだったとしても。

太結 葵音って、ご飯とかは？

涼照 私は見たことないんだけど、お母さんの話だと、夜中にたまに。

太結 話は、聞こえてるんだよね？

涼照 うん。私もずっと話しかけ続けてて、まあ、他愛もない話なんだけど。

誰々と誰々が結婚したーとか、パンダの赤ちゃんが生まれたらしいよーとか、私の仕事の愚痴とか、一方的にね、話してるんだけど、そうすると、たまに、目線とかで、反応してくれることがあって。

太結 そっか。

舞香、葵音に視線を合わす。

舞香 葵音、聞こえてるんだよね。麗羅が、川の流れ部に顔を出さなくなったのは、多分、私と、エレンのせい。私とエレンが、愛論の隣を奪ったから。もちろん、奪ったつもりなんてないんだけど、それでも、麗羅は、そう感じてるかもしれない。

涼照 舞香、何の話をするつもり？

舞香 愛論が、涼照を助けるためにフェイクファントムを作って、エレンが色々動いて、涼照を襲った男たちをやっつけて、みんな川の流れ部に入って、最初は、麗羅も川の流れ部に顔を出してて、でも涼照と葵音は入部届けを出したけど、麗羅だけは出さなかった。多分、いても自分の居場所がないって思わせてしまったんだと思う。愛論がエレンを見つけた時も、そんな感じだったみたいだから。麗羅が死んだ時、愛論は自分が裏切り者だって言った。多分そういうことだったんじゃないかな。

太結 舞香。

舞香 葵音、私、フェイクファントムを再結成したい。でもそれは、過去を懐かしむためじゃない。止まった時間を動かすため。ねえ葵音。葵音も止まった時間、動かそう。

涼照 葵音、舞香は本気だよ。私も、舞香と太結の話聞いてね、協力したいって思ったんだよ。

太結 私ね、ずっとエレンのために動いていた。でもここに来て確信したよ。私たち、みんなで、動かなきゃダメだ！ エレンだけじゃなくて、みんなのために。私たち同士のために。

舞香 私たちが動けば、愛論が動く。そしたら、麗羅のことも、もっとわかるかもしれない。愛論が動けば、私たちの、葵音の、麗羅の止まった時間が動くかもしれない。

葵音、立ち上がる。

涼照 葵音？

葵音、舞香を見つめる。

舞香 行けるよね？

葵音、頷く。

愛論、エレン、蕾花、美鈴、棒を落とす。

【照明…ブルー】

【音響…BGM ムーアサイド組曲 マーチ IN】

美鈴、布の裏へ。

愛論、美鈴以外、棒を立てる。

○現在B6

【照明…地明かり】

とある場所。

愛論、歩きながら話す。

愛論 キリスト教のことなんてそんな詳しく知らない。ただ好きなの。そういう都市伝説が。あ、宗教を都市伝説なんて言ったら怒られちゃうか。宗教

ってどうして生まれたのかな。エレンちゃんが昔、元々は、人間に災いをもたらす自然現象や病気への不安や恐怖から、緊急事態から逃れるため、なんて言ってたっけ？ 手をこんな風に合わせて。天を仰ぐ。こんな状況では、天に、神に、願うしかないじゃないかって。5年前、世界が白くなった時も、そんな感じだったんじゃないかなー？ 手をこんな風に合わせて、空に願った。でも結局、人間のことは人間しか解決できないから。だって、私たちは白い世界に慣れちゃったでしょ？ それが人間の力。だから、私たちが神に願ってると思って、こうして手を合わせていても、多分その相手は、世界のどこかの誰か、なのかなー。それは、政治家かもしれないし、お医者さんかもしれないし、研究者かもしれない、でも「私」じゃない。「私」以外の誰か、なんとかしてくれ。それが、祈るということ。1番弱い行為。私は、いっつも祈ってた。誰か「私」をなんとかしてくれーって。

【音響・BGM ムーアサイド組曲 マーチ OUT】

美鈴が出てくる。

美鈴 それで今は私に、何とかしてくれーって？

愛論 先生には頼まないよ。

美鈴 どうして？

愛論 先生は頼れる大人じゃなかったから。いや、先生はまだ頼れる方だったか。基本的に大人は頼れないから。

美鈴 悲しいのね。

愛論 先生だってそうでしょ？ だから、川の流れ部は先生にとっても逃げ場所だった。

美鈴 逃げ場所？

愛論 先生、ずっと何か抱えてた。いじめられてたの？

美鈴 私の授業があんまり好かれてなかっただけ。人間関係はいたって良好。

愛論 恋愛も？

美鈴 え？

愛論 好きな人、死んじゃったの？ ずっと、そんな顔して、川を見てたよ。

美鈴 想像力豊かなのね。でも見当はずれ。そんなことはない。それにそうだったとしてもそんな場所はいつかは終わる。この世に逃げ場所なんてないの。

どうしてあの時あなたたちが捕まらなかったのかはわからない。でも、それでもいつかは終わる。

愛論 あの時どうして捕まらなかったかの理由？ うーん。2つ、言われてることがあるよ。

美鈴 2つ？

愛論 1つは、私たちの真似をする子たちがいっぱい現れて、本物がわからなくなってしまったこと。まさにフェイクだね！

美鈴 それは知ってる。でも。

愛論 でも、それだけじゃ、いつ終わってもおかしくない。こんな話、信じられるかわからないけど、こんな都市伝説聞いたことない？ リトルファントムのリスト。そう。山口ミカ。リトルファントムのリーダーが持ち去ったっていう、顧客名簿。それを私が持つてるとしたら。

美鈴 都市伝説は都市伝説でしょ。

愛論 そう。でも、火のないところに、みたいな。

美鈴 煙は立たない？

愛論 先生マンボウの都市伝説聞いたことない？

美鈴 マンボウ？

愛論 「朝の太陽光を浴びると死ぬ」「近くに居た仲間が死亡したショックで死ぬ」「寄生虫を殺すためにジャンプして水面に当たって死ぬ」ね。

美鈴 マンボウがとつても弱いって噂ね。

愛論 マンボウって英語でなんて言うのでしょうか？

美鈴 サンフィッシュ？

愛論 おお、さすが先生！

美鈴 それがなんなの？

愛論 太陽の魚。

美鈴 うん。

愛論 もしかしたらマンボウは神様の魚かも。

美鈴 どういうこと？

愛論 キリスト様は太陽なんでしょ？ だからマンボウも。

美鈴 神様？

愛論 マンボウが最弱っていうのは、神様なんて何もできない。大したことない。そういう意味かも。

美鈴 こじつけね。

愛論 ね？ 信じられないでしょ？ でも私、再来だからな。世界だって白くなつたんだよ？ 今更信じられないことなんてあるかな？ 世界が白くなつたことも、その山口ミカが絡んでるーなんて都市伝説もあるんだって！

愛論、美鈴以外、棒を落とす。

【照明…ブルー】

【音響…BGM シューベルト軍隊行進曲 IN】

○現在A5

愛論、美鈴、エレン、棒を立てる。

【音響…BGM シューベルト軍隊行進曲 OUT】

【照明…地明かり】

裏山。

蕾花 あんまり変わってない。色は無くなっちゃって、緑は感じないけど。懐かしいね、この裏山。…なんて私が言うと思った？

【音響…BGM 威風堂々 IN】

太結 言わないの？ 懐かしいって思ってたの？

蕾花 5年前だよもう。忘れた。

舞香 嘘だ。

蕾花 嘘じゃない。私だけの川の流れ部だったのに。愛論とかエレンとか、舞香とか目立つ人ばかり入ってきて、私の居場所は失われて、形だけの、部長という肩書きだけが残って、ただ最初からそこにいたってだけなのに、いろんなことに巻き込まれて。でも今はね、そんなことで悩んでた自分が馬鹿らしい。結局あそこは人に作ってもらった居場所。居場所は自分で作るもの。人からもらった居場所は、すぐになくなる。

舞香 そんなことはない。

蕾花 壊れた居場所に縋ってるだけだよ。もう戻れない。世の中にはさ、エレンや舞香、愛論よりすごい人なんていっぱいいるんだよ。あの時の私は世界が狭かつただけ。あなたたちは過去の亡霊。消えて欲しい。

涼照 ちよつと言い過ぎだと思う。

蕾花 だってあなたたちどうかしてる。今更フェイクファントムを再結成なんて。いい大人だよ私たち？ あんなことができてたのは高校時代だったから。5年も前のことにいつまでもしがみついてみつももないと思わないの？ 麗羅が死んだから何？ 麗羅が死んだらそこで私の人生も終わるわけ？ そんなの私、いや。

葵音、奇声を発して蕾花につかみかかる。

制止する涼照。

蕾花 私はあんたたちみたいになりたくないって言ってんの！ 5年前で止まりっぱなし！

太結 それは良くないのはわかってる。だからこうやって。

蕾花 私たちもう未成年じゃないんだよ？ 犯罪なんて犯したら、時間が動き出すどころか、完全に止まっちゃうでしょ！

涼照 エレンが、もう長くないから。

蕾花 エレンは唯一ちゃんとしてたかもね！ しっかり好きなことの勉強して、会社入って……。やっぱりエレンだけは特別だったんだよ。あの頃から全部できたもん。舞香や愛論みたいに、ちよつとだけ突出したことで高校の時にめてはやされてた奴なんて、結局大人になったら有象無象に紛れて、あの頃何もできなかった麗羅と同じ！ 凡人以下に成り下がる。私に高校時代なんて必要なかった。私は今、楽しくやってるの！ エレンのことは、残念だし、かわいそうだとも思う。でも今、そこに戻りたくないの私！ 今日だって本当はあなたたちに会いたくなかった。でもこうやってここに来たのは、一言言うため。今の私の幸せを崩すような余計なこととはしないでちょうだい！

舞香 ……確かにすごいよ。蕾花はすごい。ずっと勉強頑張ってたもんね。ずっと勉強続けて、先生になるって、私、すごいことだと思おうよ。

蕾花 お世辞？

舞香 違うよ。本当にすごいなって、思うの。私は続けられなかったからさ。

私が止まってる間も蕾花は、ずっと頑張ってたんだなって。ずっと1つのことを、目標に向かって、行動し続けられることって本当にすごいと思う。

太結 私も、すごいと思うよ、すごい才能だよ。

蕾花 私、才能って言葉嫌いな。

太結 え？ あ、ごめん。

涼照 そんなに怒らないで。

蕾花 怒ってないよ。呆れてるだけ。人ってさ、他人の努力を受け入れられない生き物なんだよ。

涼照 え？

太結 そんなことないよ。みんな蕾花の努力は認めてる。

蕾花 太結。私はあなたが一番嫌いだった。虎の威を借る狐。金魚の糞。コバンザメ。他人の才能にすり寄って、まるで自分のことのように喜ぶ。私には何もできないから、まるまるできる何とかはすごいね、とか言って、才能のせいにして自分では何もしないくせに、人の努力も才能の一言で片付ける。

太結 そんなつもりじゃ。

蕾花 でも別にそんなことももういいの。教師になって、クラスを見て、世界の、社会の縮図みたいなものを見た。世の中には太結みたいな人間が、いや、世の中の多くは太結みたいな、他人の努力を受け入れず、才能って言葉で片付けて、そのくせ自分は、そこその努力で認めてもらいたがる、そんな奴らばかりだってわかったから。だから太結のことももういい。

太結 よくない！

蕾花 何？ 私はもう話すことないんだけど。

太結 私、自分が認められたいなんて思っていない。蕾花は、他人の才能にすり寄って、まるで自分のことのように喜ぶって言ったけど、それっていけないことかな？ 私は、私の好きな人が、楽しそうだったり、みんなに認めてもらえたら、嬉しいんだよ。それってダメなのかな？

蕾花 自分ができないから人にやらせてるだけでしょ。私昔から嫌いだったんだよね、サッカー部とか野球部のマネージャーする女も。自分で何かやれて思ってた。そのくせチームが勝つと自分のことみたいに喜ぶでしょ？

太結 それは、違うと思う。憧れなんだよ、そう、憧れ。憧れの人の役に立ちたいだけなんだよ。私にとつては憧れなの。今もそうだよ。エレンも舞香も、愛論も、蕾花も！ 本当に眩しい。輝いてる。

蕾花 ……帰る。

太結 蕾花！

涼照 蕾花は、見ようとしなかったよね。

蕾花 え？

涼照 私とか葵音とか、太結とかは、ずっとエレンや愛論や、舞香が眩しくて、でも輝いてたから、ずっと見ようとした。

蕾花 どういうこと？

涼照 気の強さとかは、全然違うけど、私、昔から蕾花はちよつと麗羅に似てるなって思ってた。

蕾花 は？

涼照 麗羅は多分、みんなが眩しすぎて目を背けて、その場所から離れたんだけど、蕾花は、眩しいものが自分の部屋に入ってきたから、でも部屋からは出れないから、お布団かぶって、部屋の中で、その光がなくなるのを待ってたんだと思う。

蕾花 ……意味わかんない。

涼照 ごめん。

蕾花 ……舞香！

舞香 ……。

蕾花 舞香！

舞香 何？

蕾花 川の流れ部が、フェイクファントムが、再結成したら、舞香はまた描けるの？ 愛論は、戻ってくるの？ エレンはまた何か、すごいことするの？

舞香 うん。

蕾花 ふーん。じゃあ、形だけ、手、貸してあげるよ。

舞香 え？

蕾花 私は今の立場は絶対崩したくない。でも、舞香が、エレンが、愛論が、また私に輝き？ 眩しさ？ とやらを見せつけるんなら、それは見てみたい気がする。

舞香 蕾花。

愛論、美鈴、エレン、棒を落とす。

【照明…ブルー】

【音響…BGM ラコッツイ行進曲 IN】

○回想5

プチファントム、棒を拾う。

美鈴、布の裏へ。

【音響…BGM ラコツイ行進曲 OUI】

【照明…地明かり】

裏山。

愛論 最後のターゲットは、堤織仁。

全員驚く。

エレン 葵音！ 1年の時に確か。

葵音 何もない！ 本当に。本当に何もなかったよ。

涼照 私も、葵音から聞いたよ？ 何もなかったって。

薔花 じゃあ、なんで？

太結 じゃあ別の誰か？

舞香 ねえ、愛論、堤先生が、なにしたの？

愛論 堤織仁は、私に……私の片割れに、麗羅に、手を出した。

愛論、棒を落とす。

【照明…ブルー 2つのスポット】

【音響…BGM スラヴ行進曲 IN】

愛論、2つのスポットを行き来しながら。

麗羅 私、どうしよう。また、来てって言われた。断れないよ。

愛論 断らなくていいよ。私が行く。

麗羅 ダメだよ。

愛論 だって、もしこのことがあの小根山のクソ親父にバレたりしたら、麗羅
殺されちゃうよ。男の子と歩いてただけであんな目にあっただよ？

麗羅 でも、だけど。

愛論 私なら大丈夫。一人じゃ行かないし、なんたって山口ミカの再来だからね！ カリスマだよ？ カリスマ！ フェイクファントムを引き連れて、ボロボコにしてあげるよ！ でね！ 高校卒業したら、あの小根山のクソ親父もボロボコにする。高校卒業したら、もうあのクソ親父に育ててもらわなくてもいいでしょ？ 私もあのクソ女から離れられる。赤星の名前も、小根山の名前も捨ててさ、ただの愛論と麗羅になって、それで2人で暮らそうよ！

麗羅 愛論。

愛論 だからね、もう少しの我慢だよ！ 絶対にあのクソ親父にバレないようにね！

麗羅 うん。わかった。いつもごめんね、愛論。

愛論 昔っから言ってるじゃーん。私はヒーロー、麗羅はヒロイン、だよ！
麗羅 ありがとう。

愛論、棒を拾う。

【照明…地明かり】

【音響…BGM スラヴ行進曲 OUT】

愛論 麗羅は、堤織仁と繋がってるのが、クソ親父にバレたんだと思う。だから狂ったあの親父に殺された。

葵音、泣き出す。

愛論 結局信用できる男の人なんていないんだよ。全員キモチワルイ。

舞香、愛論を抱きしめる。

愛論 舞香ちゃん？

舞香 やめて。私情で人を殺したら、私たちに正義はなくなる。

愛論 私情？ 何が私情なの？

舞香 もし堤先生が、本当に相談にのってあげてただけだとしたら？

愛論 違う！ そんなことない！

舞香 わからないでしょ？ 麗羅は死んじゃったんだから！

愛論 わかる！ わかるに決まってるじゃん！ 私は麗羅のお姉ちゃんなんだよ！ 麗羅は私のことを、私は麗羅のことをわかってる！ 同じ！ 同じなんだもん！

舞香 違う！ 愛論と麗羅は、確かに私達でも見間違うほど似てる！ でも2人は一緒ではない。だから！

愛論 じゃあ正義じゃなくていい。

舞香 え？

愛論 正義なんてなくていい。麗羅はいないんだもん。正義なんていらぬ。

舞香 愛論。

エレン わかった。いいよ。愛論。そこまで言うなら、信じるよ。堤先生を最後にしよう。

舞香 エレン！

エレン 双子って、特に一卵性双生児って、わかるんでしょ？ そういうの。

舞香 でも。

エレン みんなも、いいでしょ？ この行動に正義がなかったとしても、私たちの正義は、愛論だから。

舞香以外、頷く。

愛論 エレンちゃん、ありがとう。

舞香 待って！ 本当に終わっちゃうよ？ 全部！ 全部終わっちゃうんだよ？ 私たちが今ままで、丁寧に丁寧に積み上げてきた、自分たちがしていることを正当化するための、正しくするための、大切なものが！

愛論 舞香ちゃん、ありがとう。

愛論、舞香に棒を向ける。

愛論 でも、私、モナリザは偽物でもいいの。

愛論、舞香を抱きしめる。

愛論 ごめんね。

○回想6

【照明…ブルー+ムービング】

フェイクファントムたち「Silent night」を口ずさむ。

Silent night, holy night

All is calm, all is bright

Round yon virgin mother and child.

Holy infant, so tender and mild,

Sleep in heavenly peace,

Sleep in heavenly peace.

白い布の塊を次々に叩くフェイクファントムたち。

仕事帰りの美鈴がその様子を見かける。

美鈴 何してるのあなたたち！

【照明…ブルー】

手を止めるフェイクファントムたち。

愛論 ねえ先生。今、星が、昇ったよ。

美鈴 え？

愛論 星が昇ったら、地上には何が残ると思う？

美鈴 何？

愛論 みんなが星になったらね、地上には気持ちの悪いドロドロしたものが残るんだよ？

美鈴 なにそれ。

【音響…ミサイルの轟音】

【照明…フラッシュ】

全員、上を見上げる。美鈴倒れる。

【照明…暗転】

【音響…BGM シューベルト 軍隊行進曲 IN】

○現在 A 6

【音響…BGM シューベルト 軍隊行進曲 OUT】

【照明…地明かり】

愛論、美鈴、エレン、棒を立てる。

裏山。

蕾花が走ってくる。

舞香 どうしたの？

蕾花 これ。

紙を広げる蕾花。

舞香 私たちのマーク？

涼照 蕾花が作ったやつ？

太結 どこで見つけたの？

蕾花 死体に……。

涼照・太結 え？

蕾花 男の人の死体に、乗っかった。

太結 どういうこと？

蕾花 こっちが聞きたいよ！ もう、始めたってこと？

太結 そんなわけないじゃん！

蕾花 じゃあなんでこれがあるわけ？

舞香 まさか警察には？

蕾花 言うわけないでしょ？ 犯人が舞香達かもしれないんだから！

涼照 私たちじゃない。じゃあ誰が？

葵音、蕾花から紙を奪う。

蕾花 ちよつと！ 何？

葵音、紙を凝視して首を振る。

蕾花 何？

舞香 ……葵音。

葵音、首を振り続ける。

蕾花 何？ そんなにそれを書いた人がいるとかってこと？

葵音、首を振り続ける。

涼照 まさかエレン？

太結 できるわけないでしょ？ あんな状態で！

舞香 じゃあ、愛論が？

葵音、首を振り続ける。

舞香 私たちじゃ、フェイクファントムのメンバーじゃないってこと？

葵音、頷く。

舞香 じゃあ、誰が？

葵音、困った顔をする。

蕾花 私たちの中の誰でもないなら、一体誰が何の目的でこんなことするわけ？

舞香 わかんない。けど、私たち以外にそのマーク知ってる人。いた。

蕾花 え？

舞香 有田先生は、多分知ってるはず。

薔花 え？

舞香 最後の日、有田先生は堤先生の死体を見てる。

太結 でも有田先生って、あの日のショックで記憶喪失になってるんじゃないや。

涼照 お見舞いにも行ったよね？ あの日がみんなが集まった最後の日だから、

覚えてる。先生はあの日最後の記憶がなくなってた。

舞香 思い出したとしたら？ あの日、自分が何を見たか。

太結 でも、思い出したとしても、人を殺す理由にはならないでしょ？

舞香 うん。でも、とにかくこの件に愛論か有田先生が関わってる可能性は高

い。

薔花 そうかもしれないけど。

舞香 愛論は行方不明。でも有田先生なら場所がわかるかも。

薔花 有田先生なら、私、場所知ってるよ。隣の学校で先生やってるから。

太結 え？

薔花 私から、話してみようか。

舞香 でも。

薔花 私も久しぶりに有田先生に会いたいしね。

愛論、美鈴、エレン、棒を落とす。

【照明…ブルー】

【音響…BGM ムーアサイド組曲 マーチ IN】

○現在B7

愛論、美鈴以外、布に隠れる。

愛論、棒を拾う。

【音響…BGM ムーアサイド組曲 マーチ OUT】

とある場所。

【照明…地明かり】

愛論 私、先生に頼りたいことがあるの。

美鈴 さっき大人には頼らないって言ってなかったっけ？

愛論 言ったよ？ 「大人」には頼らないって。だから、戻ろうよあの頃に？

美鈴 あの頃？

愛論 あの頃。まだキラキラしてたあの頃に。

美鈴 あのね、私は、あなたたちに出会った時にはもう大人なの。

愛論 違うよ。先生は出会った頃にはもうキラキラしてなかった。

美鈴 え？

愛論 先生がキラキラしてたのは、先生が高校生の頃。堤織仁と付き合ってた頃だよ？

【音響…BGM 一定のリズムの拍子木 IN】

美鈴 ……。

愛論 堤織仁は言ってたよ？ 美鈴とは、美鈴が19歳になったから別れたんだって。

美鈴 何言ってるの？

愛論 堤織仁は言ってたよ？ 美鈴は、友達もいなかったし、口も固そうだったから、声をかけやすかったんだって。

美鈴 やめて。

愛論 堤織仁は言ってたよ？ 美鈴は、気持ち悪いって。なんで追いかけてくるんだって。

美鈴 デタラメ言わないで！

愛論 全部、全部、言ってたよ？ 5年前、ベッドの中で！

美鈴 もうやめてって言ってるでしょ！

愛論 思い出してよ。堤織仁の最後の顔を。思い出してよ。世界が白くなった日を！

美鈴 やめて！

愛論 先生、多分、あの頃に戻った方が幸せだよ？ 私、協力して欲しいの。

美鈴 ……協力？

愛論 みんなが前に進むための、交換条件。

美鈴 交換条件？

愛論 あの人たちが指定した人を殺す。

美鈴 指定した人？

愛論 研究資金が欲しいの。お金は国から出るようになってるの。でも邪魔を

する人達がいるから、邪魔する人達は、いなくなってもらおう。

美鈴 さっぱりわからない。

愛論 実は、私と先生だけなんだよ？ 仲間はずれなのは。ずーっと、子供のままなのは。そして私と先生だけは、大人になれない。

愛論、棒を落とし、布に隠れる。

【照明…レッド】

美鈴、棒を拾う。

○現在 1

【照明…ブルー+ムービング】

美鈴、「Silent night」を口ずさむ。

Silent night, holy night

All is calm, all is bright

Round yon virgin mother and child.

Holy infant, so tender and mild,

Sleep in heavenly peace,

Sleep in heavenly peace.

白い布の塊を次々に叩く美鈴。

蕾花 何してるんですか有田先生！

【照明…ブルー】

舞香、蕾花、太音、鈴照、葵音、現れる。

美鈴、舞香たちの方を見る。

蕾花 何してるんですか？

美鈴 ……あなたたちの真似。

舞香 真似？

美鈴 こうしてるとね、匂いがするの。
舞香 匂い？

美鈴 木々の青々とした葉っぱたちと、少し甘い花の香りと、夏の少しもったりした空気、私たちの少しの汗と、すりむいた血の鉄分と、制汗剤と、そんなものが混ざって混ざって、つまり、いわゆる青春の匂いが。

蕾花 何言ってるんですか？

美鈴 あなたたちもこの匂いの中にいたんでしょ？ この匂いを求めてここにやってきたんでしょ？ そうやって堤先生のこと星にしたんだもんねー。

私の、手の届かないところに、飛ばしちやっただもんねー。

蕾花 いい加減にしてください！ 正気に戻ってくださいよ！

舞香 蕾花、もうダメかも。目がおかしい。

蕾花 でも。

美鈴 あなたたちと過ごした時間。とっっても楽しかった。だから、戻りましょーうよ！ あの頃に！

美鈴、舞香たちを襲う。

逃げる舞香たち。

舞香が追い詰められる。

太結 舞香！

愛論 先生待った！

美鈴、止まる。

【照明・地明かり】

愛論、現れる。

舞香 愛論！

愛論 先生、もう終わりだよ。もう、受け入れないと！

美鈴 何言ってるの？ 終わってない！ 私は何も叶ってない！

愛論 終わりなの！ 叶わないことを受け入れるの、それが終わりの合図だよ！

美鈴 いや！ 私は！ 私は！

美鈴、錯乱して、逃げていく。
間。

【音響…BGM ドビュッシー アラベスク IN】

愛論 やあみんな。変なところであったね！

涼照 愛論。

太結 (同時に)愛論なの？

愛論 そうだよ？ 違う人に見える？

蕾花 あんた、変わってなすぎ。

愛論 へへへへ。

舞香 愛論、私たちね、エレンが。

愛論 大丈夫。全部、知ってるよ。

舞香 え？

愛論 私はヒーローだからね！ 舞香ちゃんをね！ 助けてあげようと思っ
て！

舞香 私を？

愛論 フェイクファントムなんて再結成しなくていいんだよ？ そうというのは、

私がやるから。私が、やんなきゃいけないことだから。

太結 どういう意味？

愛論 エレンちゃんに会いに行こう？ エレンちゃんのために描くんでしょ？

舞香 でも、私、絵が。

愛論 大丈夫。これ！ やつとできた！

愛論、白い包みを渡す。

舞香 なにこれ？

愛論 どうしても欲しかったから。先生には悪いけど、協力してもらったの。

舞香 どういうこと？

愛論 フェイクファントムは、いや、先生はあの人たちの邪魔な人を殺す。そ
の代わりに私は、これもらう。

舞香 これは。

愛論 舞香ちゃんね、生まれつき素晴らしい才能を持ってる。

舞香 え？

愛論 舞香ちゃんが絵が描けなくなったのは、世界が白くなったから、じゃない。フェイクファントムが解散したから、でもない。私が、エレンちゃんが、いないからでもない。

舞香 どういうこと？

愛論 世界が白くなった時に、舞香ちゃんの見えてる世界がみんなと同じになっちゃったから。

舞香 みえてる世界？

愛論 舞香ちゃんはね、色盲ってやつなんだよ。

舞香 色盲。

愛論 そう。だから、色使いが独特だったし、人とは違うものの見方ができた。障害なんかじゃない、欠点なんかでもない。舞香ちゃんの長所。

舞香 長所……。

愛論 だから、舞香ちゃんに、また描いてもらおうと思って。探してたんだ。世界を元に戻す方法。

舞香 それで、いなくなったの？ なんで、何も言ってくれなかったの？

愛論 これは、私のわがままで、私のためにすることだから。

舞香 え？

愛論 世界は元に戻らないけど、これを使えば、きっと舞香ちゃんの世界は戻るはずだから。

舞香 なんか、変だよ。

愛論 え？

舞香 愛論と喋ってる感じがしない。

愛論 まあ、久しぶりだからな。

舞香 いきなり、色盲って言われても、なんかよくわかんないし、これでまた描けるようになったとしても、なんか、もやもやするよ。

愛論 もやもやしてもいいよ？ 描けるようになってくれれば。

舞香 愛論が、私のために、してくれることは、本当に嬉しいんだけど、なんか、わかんないの。私は、何も、何もしてない。私、してもらってばかりだ。今回だって、私、みんなにただ会っただけで、自分から何かしたわけじゃない。全部愛論が。

愛論 そんなことないよ。元はと言えば全部私が。

【音響…蝉】

愛論、叫びながら蝉を払う。

【音響…BGM ドビュッシー アラベスク O U T】

間。

葵音 ……ああい。

涼照 葵音？

葵音 ……あない。

太結 何？ 何て言いたいの？

葵音 ……あない。愛論じゃない！

葵音、愛論にしがみつく。

愛論 葵音ちゃん。

葵音 ねえ！ 愛論じゃないよね？ 愛論じゃない！ 麗羅だ！ 麗羅だ！

麗羅だよ！

舞香 どういう、こと？

太結 愛論じゃない？

涼照 麗羅？

葵音 そうだよね！ だって！ 愛論は虫が大好き！ 蝉も大好き！ でも！

麗羅は虫が苦手だった！ 麗羅だよ！ 麗羅だよね？

菫花 ……麗羅なの？

葵音 絶対そうだよ！ だって！ あのマーク！ あのマークも思った！ あ

れは麗羅が描いたんだよ！ 愛論じゃ描けない！

舞香 麗羅？

愛論 ……違うよ？ 何言ってるの？ 私、愛論だよ？

舞香 麗羅！

愛論 違う。

舞香 愛論は？

愛論 私だって。

舞香 愛論は！

愛論 舞香ちゃん？

舞香 あの時、殺されたのは、麗羅じゃなくて、愛論だった？

愛論 舞香ちゃん！

舞香 あの日、最後のターゲットを決めたのは、愛論じゃなくて、麗羅。フェイクファントムを、終わりにしたのは、麗羅？

愛論 違うってば！

舞香 どうして！

愛論 だから私は愛論だって。

舞香 お願い！ 本当のこと教えて！

愛論 ……私が、死ねばよかったのにな。

舞香 え？

麗羅 私が、死ねばよかったんだよ！

葵音 そんなことない！

【照明…ブルー＋ムービング】

【音響…BGM くるみ割り人形 行進曲 IN】

美鈴、棒を持って舞台背面を歩き回る。

舞香 やっぱ麗羅なの？

麗羅 愛論は、堤先生と繋がってなんかない！ 堤先生と繋がってたのは私！

愛論が！ 愛論が私の代わりに……。自分の娘の区別もつかない、最低なあの男に……。

舞香 どうして言ってくれなかったの？

麗羅 言えるわけじゃないでしょ！ みんな！ みんな愛論のことが好きだった！ 愛論を殺しちゃいけないと思った！ 私なら、私なら生きてても、死んでも同じ。だから！ 愛論から、渡されたの。何かあったらこれを使いなって、秘密兵器だって！ だから、私はそれを、死んだのが私にするために使った。

舞香 そんなのまやかしてしょ！ 何の意味もない！

麗羅 まやかしてもいい！ フェイクでもいいと思った！ 私は、私の持てる全てを持って愛論になろうと思った。愛論の亡霊に！

舞香 どこまでいっても偽物は偽物だよ！ 麗羅は、愛論にはなれない！

麗羅 そんなことはわかってる！ 贋作だって！ モナリザの贋作がどうして

作られるかわかる？ 贋作でも楽しんでくれる人がいるからだよ？

舞香 私たちが、偽物で、偽物の愛論が生きてると信じ続けて幸せになれると思う？

麗羅 なるるよ！ 舞香ちゃんは！ 愛論がいなくても、エレンちゃんがいなくても！ すごい人なんだから！ 舞香ちゃんならできるって信じてたから！

舞香 勝手なこと言わないでよ！ 勝手に人が描けなくなった理由決めつけて、

麗羅 決めつけてなんかない！

舞香 決めつけてる！ 私は確かに色盲なのかもしれない！ そうなのかもしれない！ でもそれは描けなくなった原因じゃない！ 私はフェイクファントムがなくなっただけから！

麗羅 それが嘘だよ！ 自分に嘘つかないでよ！ そうやって、元に戻らないものばかり追い続けて、昔に固執して。見てられないんだよ！ そうならないために私は、全部終わらせたのに！ どうにもできないものを理由にして逃げないでよ！ どうにかできるものを理由にして前に進んでよ！ エレンちゃんは、愛論は、舞香ちゃんは、ずっとそうやってきたんじゃないの？

舞香 前に進んだ先に何があるの？ 何もない！ 何もないよ！ 麗羅はわかってない！ 麗羅はずっと外から見てただけだから！ 星は、外から見れば光ってるかもしれないけど、多くの星は太陽の反射で光ってるだけ！ 光ってる星だって、外から見えてる光は何億光年も前のもの！ 今、現在進行形では、光ってない！ 光ってないんだよ！

美鈴、布に隠れる。

麗羅 ……それでも、私は、舞香ちゃんなら大丈夫だと思ってる。

舞香 なんでそんなこと言えるの？

麗羅 愛論がいつも話してくれてたんだよ。舞香ちゃんのこと。エレンちゃんのこと。いつも、そうだったから。私、みんなと一緒にいなかったけど、いつもみんなの隣にいるような気持ちだったんだよ？

舞香 勘違いだよ。

麗羅 舞香ちゃん。ごめんね！ でも、その葉は、それは、本物。愛論もきっとそれを望んでたと思うから。じゃあ、エレンちゃんによろしくね！

葵音 麗羅。
麗羅 葵音ちゃん、ごめん。

麗羅、逃げ出す。

【音響・BGM くるみ割り人形 行進曲 OUT】

【照明・地明かり】

舞香、その場にへたれこむ。

葵音 麗羅！

葵音、追いかける。

涼照 待って葵音！

涼照、葵音を追いかける。

間。

舞香、棒を拾い、布を叩く。

舞香 ……なんだよ。終わってたんじゃん。初めから、全部。全部、終わってたんじゃん！ もう、愛論はいない。エレンもいなくなる。色盲が、何？ それが原因？ だから何？ それが治って何になるの？ それで絵を描いたからって何になるの？

蕾花、舞香をビンタする。

蕾花 だから嫌いなもの！

舞香 え？

蕾花 本当に自分のことばっかだよ！ 勝手すぎる！ エレンも愛論も、舞香も！ 自分たちの世界に浸りすぎなんだよ！ わかんないの？ 見えてないわけ？ 確かにもう愛論は、いないのかもしれない！ でも、いたじゃん！ 麗羅はここに居たんだよ！なのに。最低！最低だよあんたは！

蕾花、涼照を追う。舞香、固まる。
太結、舞香を抱きしめる。

太結 ねえ、舞香。追いかけてよう？

舞香 ……うん。

太結 行くよ？

舞香 うん。ごめん。太結。

太結 私だって、頭ん中ぐちゃぐちゃだよ。

舞香 うん。

太結、舞香、去る。

○現在2

ふらふらと美鈴が出てくる。

【音響…BGM 結婚行進曲 ワーグナー IN】

【照明…スポット】

美鈴 ああ、眩しい。星が、天に、空に昇っていく。やだ。私を置いていかな
いで！ やだ！ 私を一人にしないで！ ねえ！ 私も、空に。

美鈴、倒れる。

【照明…暗転】

○現在3

【音響…BGM 結婚行進曲 ワーグナー OUT】

【照明…地明かり】

裏山。

エレン なんとなくね、そうなんじゃないかなーって思ってたよ。

太結 え？

エレン あの日、すぐに思った。愛論じゃないって。

太結 ならなんで？

エレン でも、きっと理由があるって思ったから。

太結 理由？

エレン 麗羅が、愛論にならなきゃいけないかった理由。

太結 そんな理由。

エレン 理屈では説明できないと思うよ。でも、麗羅は思ったんじゃないかな。

「愛論」という人間をここで殺してはいけないって。ね、舞香？

舞香 ……うん。

エレン 麗羅が、愛論でいてくれたおかげで、私もここまで生きられた。

舞香 エレン。

エレン 死ぬ前に、麗羅に会いたかったな。

舞香 ごめん。

エレン 舞香が謝ることじゃないよ。

涼照 ごめん。私が、見失っちゃったから。

太結 涼照のせいじゃないって。

エレン 大丈夫。葵音がついてるはずだから。

涼照 うん。葵音なら、きっと。葵音には、この場所。川の流れ部のいつもの

場所だって、伝えてあるから。間に合えば、連れて来てくれる。

エレン 間に合わなかったとしても、麗羅が元気でいてくれたら私はそれでい

いよ。

舞香 エレン。

エレン そんな悲しい顔しないでよ。

舞香 でも。

エレン 愛論に言われるよ？ 舞香ちゃんは笑ってたほうがいいって。

舞香 うん。

蕾花が現れる。

蕾花 どうせなら、業界人とか呼べばよかったのに。どうして子供達な訳？

太結 有名になりたいわけじゃないでしょ。

蕾花 有名になった方がいいじゃない？ そしたら舞香も返り咲けるわけだし。

舞香 別に望んでないよそんなこと。

蕾花 望んでなくても、その方が得じゃない？ って話。

エレン 私のわがままなんだよ。

蕾花 え？

エレン 私が生きた証を残したいと思った時に浮かんだのは、みんなだったし、だから、私は、あの頃の私たちでもあるあの子たちに私の最後を残したいと思っただの。

蕾花 最後まで、私には理解できないよ。

エレン 蕾花がいてよかったよ。

蕾花 え？

エレン 私のことを理解できないって言うってくれる人が、私の側にいてくれるのって、本当に幸せなことだからさ。

蕾花 またそうやって。死ぬ間際だからって、ずるいよ。だから、ずっと。

エレン ずっと？

蕾花 なんでもない。

舞香 どうして？

エレン 何？

舞香 どうしてエレンは、そんなに強くいられるの？

エレン え？

【音響・BGM モルダウ IN】

舞香 もうすぐ、もうすぐ死んじゃうんだよ？ この世から、いなくなっちゃ

うってこと。なのに、どうしてそんなに明るくいられるの？

エレン ……みんながいてくれるからだよ。

舞香 エレンは、最初から一人でなんでもできた。全部自分でできた。私たちにたぐさんのものをくれた。でも私たちは、何もできてない。

エレン そんなことないよ。それにね。

舞香 うん。

エレン なんでもできるってことはなんにもできないのと一緒にだよ。

舞香 どういうこと？

エレン ギリシヤ神話に全知全能の神さまのゼウスっているでしょ？

舞香 うん。

エレン ゼウスこそ、私たちの言っていた気持ち悪い何かの象徴だと思うんだけど、何でもできちゃうからこそ、退屈で、何も楽しめなくて、本能のまま、下位の欲求を満たそうとしちゃうんじゃない？

蕾花 ゼウスと自分が同じって言いたいなの？

エレン そうじゃなくて。なんだろう。やりたいことがあるって、幸せなことだと思うんだよね。

舞香 でもエレンはちゃんと自分の好きなことを。

エレン (笑って) 実はね、私。舞香に嘘ついてたことあるんだ。

舞香 え？

エレン 私、舞香に会うまで、写真なんて撮ったことなかった。

舞香 嘘。

エレン だからね、本当にみんなのおかげなんだよ。

舞香 私のせいで。

エレン せいじゃない。おかげ。舞香が、みんなが、いたから、写真を撮ろうと思った。世界を、切り取ろうと思ったんだから。それで、それが楽しくなくて、広告の写真撮りたいって思ったんだから。

涼照 そうだったんだ。

太結 最初から上手だったから、全然気づかなかった。

エレン 私、なんでもできちゃう方だから。

蕾花 さすが、素直に羨ましいよ、そういうの。

エレン (微笑む) ありがとう。

舞香 私が、私たちがいたから、写真を撮ろうと思ったの。

エレン そうだよ。私がやりたいことをつくれたのはみんなのおかげなの。

舞香 ありがとう。

エレン ありがとうは私のセリフじゃない？

舞香 ごめん、ありがとう。

エレン 感謝される覚えはないんだけどなー。さて舞香！ そろそろ始めるよ。
舞香 うん。

舞香、カメラを準備する。

そこに麗羅と葵音が現れる。

全員 麗羅！

麗羅 ごめん。遅くなった！

太結 心配したんだから！

菫花 そうだよ！ 有田先生のこともあったし。

麗羅 ごめんごめん！ ちょっと時間かかっちゃった。でも大丈夫！ この通り！

舞香 麗羅。

麗羅 この間はごめんね、舞香！

舞香 私の方こそ。ごめん。

麗羅 葵音のおかげで、みんなと過ごせる、大切な時間間に合った。

涼照 葵音が、連れてきたくれたの？

葵音 違うよ。私は、ずっと、そばに居ただけ。

麗羅 葵音は、ずっと一緒にいてくれたの。何も言わないで、ずっとそばに。それが、嬉しかった。

葵音 私、しゃべらないのは、慣れてるからね。

涼照 葵音にしかできない、すごいことだよ。

葵音 涼照が私にしてくれたことと同じだよ？

涼照 葵音。

エレン 麗羅、葵音、久しぶり。

葵音 久しぶり。

麗羅 エレンちゃん。お待ちせ！ ヒーロー参上だよ？

エレン まだ、愛論みたいに喋るの？

麗羅 もう5年もやってたから、染み付いちゃってね！ それに、こうしてる
と、愛論が、まだそばにいるような気がしてき、私、じゃなくて、私たち、
で生きてるような気がするんだよね！

エレン そっか。

麗羅 だから、みんな一緒だよ？ 愛論も、きっとここにいる！

麗羅、エレンの肩を抱く。

エレン そうだよね。会えて、本当に嬉しい。私が最後に見る景色が、みんなと一緒に見れて、本当に、嬉しいよ。私も、みんなの、私たちの中に入れるかな？

舞香 当たり前でしょ。

【音響…子供達の声】

エレン (笑って) ありがとう。こんなに、幸せなことはないよ。短い人生だったかもしれないけど、本当に、ここまでみんなと生きてこれて、良かった。

エレン、カメラを構える。

【音響…時計の針の音】

エレン、シャツターを切る。布を広げると大きな虹が描かれている。

エレン ああ、みんな、眩しいな。

【照明…暗転】

【音響…BGM ドビュッシー 月の光 OUT】

【音響…BGM ベートーベン トルコ行進曲 IN】

○エピソード

【照明…スポット】

インタビュ―。虹の前で話す舞香。

舞香 このアトリエですか？ 仲間たちが作ってくれたんです。山のとっぺんに掘建小屋。風情がありますよね？ 世界が白くなって、世の中はみんな、それに慣れていって、順応しようとしたんですけれど、私の仲間たちはそうじゃない、世の中を戻そうとしたんですよ。まあ、戻らなかったんですけどね。でも、みんなが色々動いてくれたおかげで、私の世界は少しずつ、戻ってきました。なんかね、匂いがあるんですよ。戻ってきたなあっていう感じの、そう、甘酸っぱくて心地いいあの匂いが、ちよつと戻ってきてる

気がするんですよ。みんなには感謝しかありません。ほら、見てくださいこれ。この絵、みんなで描いたんですけどね。いい感じでしょ？ 川じゃないですよ。でも、そうですね、今きつと皆さんにはこれは川にしか見えないのかもしれない。でも、あの日、私には、私たちには、これがもっと別の、素晴らしいものに見えたんです。私の目標はですね、これがなんだかみなさんにお伝えすることです。それが、私の目標であり、使命だと思います。そうあの日、誓ったんですよ。私たちに。

鳩が飛ぶ。【音響…羽ばたき】

【照明…暗転】

【音響…BGM ベートーベン行進曲 OUT&IN】

幕